



浪江町長
馬場 有

新年のご挨拶



浪江町議会議員
小黒 敬三

平成27年の新春を迎え、皆様の本年一年のご健勝とご多幸をご祈念します。

昨年、「町民一人ひとりの選択を可能とするために復興の動きを見える形にすること」を目標に、行政執行してまいりました。各班に亘りご協力・ご指導を賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。

さて、町はいま、県内外に避難されている町民の方々の生活再建・生活支援に力点を置き、賠償、住居の改善（災害復興公営住宅、みなし借上げ住宅の更新支援等）と整備、医療費・国保税の減免措置、町民相互交流会開催等のネットワーク化、就学支援、就労・事業再開支援、復興支援員（二府九県に配置）の相談窓口創設、町民の絆をつなぐ広報の強化等々、平時にない業務を展開しております。

また、町の再生に向けて道路、上下水道のインフラ復旧・改修に努めており、津波被災

地において消波ブロック竣工、被災船舶の解体、がれき分別作業、町営墓地の造成着工、防災集団移転の用地買取り事業の着手、さらに水稲実証栽培、防災行政無線の再配置完了、危険家屋の撤去、数か所地域での除染、常磐自動車道の浪江インターから宮城県山元インターの供用開始等、ようやく復旧のスタートラインにつき、目に見える形になっております。今年はこれらに拍車がかかるように努めてまいります。

次に今年の施策目標についてであります。「復旧実現期」の第二ステージにあたり、第一ステージの踏襲になりますが、特に今年のは町のアイデンティティ存立のために、双葉郡北部の復興拠点と位置付け、国のイノベーション・コースト構想と融合するまちづくりを提案したいと考えております。

第一に、浪江町だからできる

る新たな第一次産業のかたちを具現化します。農作物、魚介類等の放射性物質の検査・研究施設設置、並びに海洋、河川の放射性物質移行に関する調査・研究施設を設置し、また新たな作物、新たな形態のICT農業拠点の形成などで、一次産業の再生・復興に努めます。

第二に、被災地だからこそ「学べる」「伝えられる」ことを具現化します。技術者の育成を視野に入れた研究施設設置、記録や資料の収集・保存、調査研究を行うメモリアル記念館設置による学術研究都市の形成に努め、情報発信拠点も整備してまいります。

第三に、双葉郡復興を支え、推進するために、セメント、金属などの資材リサイクルセンターを設置して、資材供給拠点の形成に努めます。

第四に、新エネルギー産業の創出を具現化します。メガソーラーなどの再生可能エネ

石の上にも三年ということわざがありますが、四度目の春を迎えました。

もはや限界、いやいや人は意外としぶといものと敢えて自らを奮い立たせるか、自分のためにも一人ひとり心を強く持つてください。

自分の努力の範疇にあるものは、三年ほど一所懸命に物事に当たれば目鼻がつくものですが、今回の震災および原発事故からの復興と各自の生活再建は私たちの努力の範疇を超えるものがほとんどです。そのため浪江町議会では震災直後より、国・県・東電への働きかけを強く求めてきました。「要望活動は判ったが、成果を出せ」という声も聞かれますが、当然のことと受け止め、さらなる活動をしてまいります。

昨年は、主な活動として、1月27日に「原子力損害賠償紛争審査会中間指針第4次追補の見直しに関する要望書」を国・東電および政権与党の自由民主党東日本大震災復興加速化本部大島理事本部長はじめ公明党へ、7月25日は、「浪江町民の原子力損害賠償紛争解決センター（ADR）集団申立て

和解案に対する東電の早期全面受諾を求める要望書」と「浪江町の復興に向けた要望書」を国・東電と主要各政党および福島県選出国会議員へ、11月7日には再度、イノベーション・コースト構想を加えた「浪江町の復興に向けた要望書」を大島本部長、復興庁、文部科学省、経済産業省、環境省に要望してまいりました。

少しずつではありますが、ポディブローのように効き目がじわじわと出てきているものもあります。芽が出る前の深く省庁内に根を張り巡らせるような地道な活動も続けていかなければなりません。

町会議員と町民との意見交換会については、仮設、借上げ住宅の自治会や各団体ごとに要望があれば日程など打ち合わせをしてどこへでも伺うとしておりましたが、桑折駅前仮設住宅1件のみでした。有意義な交換会となりましたが、件数が少ないと要望活動に対する後ろ盾が弱くなります。町民の皆様の意見が議会活動のバックボーンとなりますので、今年こそは多数の参加申込みをお願いいたします。

気になること 避難生活の長期化や復興の遅れが人の心を蝕んでいきます。放射能に対する考え方や帰る、帰らない、帰れないなど意見の違いで弱者同士で争い合いがなないようにお互いに気を付けなければなりません。そして、今の私たちにしかできないこともあります。私の言葉ではうまく表現できないので、詩人の坂村真民さんの詩で伝えたいと思います。

「あとからくる者のために／苦勞をするのだ／我慢をするのだ／田を耕し／種を用意しておくのだ、あとからくる者のために／しんみんよ お前は／詩を書いておくのだ、あとからくる者のために／山を川を海を／きれいにしておくのだ、あああとからくる者のために／みんなそれぞれの力を傾けるのだ／あとからあとから続いてくる／あの可愛い者たちのために／未来を受け継ぐ者たちのために／みなそれぞれ／自分で出来る何かをしてゆくのだ」。

皆様の幸せと町の復興が一日でも早く進むことをご祈念いたします。新年の挨拶いたします。

ルギーを県内全域から集約し、供給するための畜電拠点施設を設置し、新たなエネルギー利用体系の構築に努めます。以上、これらの構想を基本に具現化できるよう、国・県へ要望し、大きな幹になる「タネまき」の一年間と考えます。いずれにしても町民の皆様が続けたいと存じますので、宜しくお願いいたします。結びに、寒い日が続きますが、何卒体調には十分留意され、今年一年皆さまが笑顔で過ごされますことを心より祈念し、新年のご挨拶といたします。



浪江町議会議員
(議席番号順)

- 佐々木 恵 寿
- 馬場 績
- 三瓶 宝 次
- 吉田 数 博
- 紺野 榮 重
- 佐藤 文 子
- 泉田 重 章
- 山本 幸 一郎
- 若月 芳 則
- 山崎 博 文
- 松田 孝 司
- 平本 佳 司
- 鈴木 幸 治
- 佐々木 勇 治
- 渡邊 泰 彦